

# デマンド交通の課題と存在意義

吉田 樹 (福島大・前橋工科大)

## ■ デマンド交通にも、2つの「バイ」が存在 cf. 「商売路線」「アリバイ路線」(名大・加藤博和先生)

- ◆ **アリバイ**: 自治体政策において、デマンド交通の導入自体が目的化
  - ◇ 「先行事例」の模倣で導入し、自治体や議会が「取り組んだつもり」になることが問題
- ◆ **ショーバイ**(商売): 運営事業者の利益確保が前提
  - ◇ 「コミバス=100円/デマンド=300円」の相場では、採算は成り立たない
  - ◇ スポンサー確保や予約・配車業務の「標準化」は一つの解/サブスクは「場所を選ぶ」

## ■ 自家用車への依存度を下げる「出口戦略」が必要

- ◆ 自家用車の維持に関わる家計支出は、小規模自治体ほど高額
  - ◇ 2019年家計調査: 年26万円(5万未満の市町村), 年15万円(政令市・特別区)
- ◆ デマンド交通: 利用希望者と車両のマッチングが成立しなければ使えない
  - ◇ 路線型の公共交通とは異なり「信頼性」に欠ける面も: 「信頼される」路線型の公共交通と組み合わせるで、**移動手段の「選択肢」を豊かにする**存在に
  - ◇ ICT高度化で「乗合」と「乗用・相乗り」は相対化。プライシングが持続性の鍵に